

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康管理学		理学療法科／1年	2022／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	西渕 央 (実務経験有)

授業の概要

健康管理について栄養学なども含め学んでいきます

[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

栄養とは食物をとおして、人の健康状態を高めるものである。本講義では、健康的な食生活を送るために、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて学ぶ。また、分子の動態から栄養学を解説する。

回	テーマ	内容
1	栄養学概論（栄養学とは）	講義、スライド
2	栄養学総論（食生活の現状と健康）	講義、スライド
3	栄養素の機能（炭水化物）	講義、スライド
4	栄養素の機能（脂質）	講義、スライド
5	栄養素の機能（たんぱく質）	講義、スライド
6	栄養素の機能（無機質）	講義、スライド
7	栄養素の機能（ビタミン）	講義、スライド
8	栄養生理（食物の摂取）	講義、スライド
9	栄養生理（消化・吸収および排泄）	講義、スライド
10	栄養生理（エネルギー代謝）	講義、スライド
11	ライフステージと栄養（妊娠期・授乳期の栄養・成長期の栄養）	講義、スライド
12	ライフステージと栄養（成人期の栄養・高齢期の栄養）	講義、スライド
13	病態と栄養（食事療法・栄養素の過不足と病気・その他の病気と栄養）	講義、スライド
14	栄養学と生化学の接点	講義
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
社団法人 全国調理師養成施設協会『栄養学』 科学技術庁資源調査会 編『五訂最新食品成分表』一橋出版。 社団法人 全国調理職業訓練協会『介護食士講座テキスト』 細谷憲政 著『人間栄養学』調理栄養教育公社。 荒川信彦・田島真 編著『食品学』調理栄養教育公社。	期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学 I		理学療法科／1年	2022／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	竹村 蘭美 (実務経験有)

授 業 の 概 要

運動器の基本構造と機能面について広く講義した後、肩甲帯、肩関節、肘関節の上肢運動学について講義していく。また、手関節、腕神経叢の構成に加え、膝関節、足関節の下肢運動学についても講義していく。

[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

本講義は、運動学の位置付けができる、筋・骨・関節の名称および形態をしる。

また、主に、上肢に関する関節の名称・構造の特徴を理解し、それぞれの関節の運動力学・筋骨格系との関連を知る。

回	テ　ー　マ	内　容
1	運動学とは	講義 小テスト
2	姿勢の名称と関節運動方向の名称	講義 小テスト
3	関節の基本的構造	講義 小テスト
4	可動関節の形態分類	講義 小テスト
5	骨格筋の構造と機能	講義 小テスト
6	骨格筋の構造と機能	講義 小テスト
7	確認テスト 1	試験・解説
8	肩関節の機能解剖と運動学①	講義 小テスト
9	肩関節の機能解剖と運動学②	講義 小テスト
10	肩関節運動に関与する筋①	講義 小テスト
11	肩関節運動に関与する筋②	講義 小テスト
12	肩関節にみられる疾患①	講義 小テスト
13	肩関節にみられる疾患②	講義 小テスト
14	確認テスト 2	試験・解説
15	肘関節・前腕の機能解剖と運動学①	講義 小テスト
16	肘関節・前腕の機能解剖と運動学②	講義 小テスト
17	肘関節・前腕の運動に関与する筋①	講義 小テスト

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	肘関節・前腕の運動に関する筋②	講義 小テスト		
19	肘関節・前腕にみられる疾患①	講義 小テスト		
20	肘関節・前腕にみられる疾患②	講義 小テスト		
21	確認テスト3	講義 小テスト		
22	手関節の機能解剖と運動学①	講義 小テスト		
23	手関節の機能解剖と運動学②	講義 小テスト		
24	手部の機能解剖と運動学①	講義 小テスト		
25	手部の機能解剖と運動学②	講義 小テスト		
26	手関節・手部の運動に関する筋①	講義 小テスト		
27	手関節・手部の運動に関する筋②	講義 小テスト		
28	手関節・手部にみられる変形①	講義 小テスト		
29	手関節・手部にみられる変形②	講義 小テスト		
30	確認テスト4	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
有馬慶美 他 監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版。		確認テスト1	25.0%	単元ごとのテスト
青木隆明 監修 『運動療法のための機能解剖学的触診技術』 メディカルビュー		確認テスト2	25.0%	で評価
中村隆一 他 『基礎運動学』 医歯薬出版		確認テスト3	25.0%	
		確認テスト4	25.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法科／2年	2022／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本 はるか (実務経験有)

授 業 の 概 要

股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能が理解できるように講義を実施する。また、各関節の動きに関与する筋を覚え、触診し、動かせるよう演習を実施する。各関節に関連した評価やストレッチについて演習する。

歩行分析についての講義後に、繰り返し分析練習を実施しレポートの作成をする。

【実務経験】病院

授業終了時の到達目標

本講義は、主に、股関節、膝関節、足関節、脊柱に関する関節の名称・機能を理解し、それぞれの関節の運動力学・筋骨格系との関連を知る。

回	テ ー マ	内 容
1	股関節の機能解剖と運動学①	講義 小テスト
2	股関節の機能解剖と運動学②	講義 小テスト
3	股関節周囲筋の触診①	講義 小テスト
4	股関節周囲筋の触診②	講義 小テスト
5	股関節に関する整形外科的検査	講義 小テスト
6	股関節に関する疾患	講義 小テスト
7	股関節に関する疾患	講義 小テスト
8	確認テスト 1	試験・解説
9	膝関節の機能解剖と運動学①	講義 小テスト
10	膝関節の機能解剖と運動学②	講義 小テスト
11	膝関節周囲筋の触診①	講義 小テスト
12	膝関節周囲筋の触診②	講義 小テスト
13	膝関節に関する整形外科的検査	講義 小テスト
14	膝関節に関する疾患	講義 小テスト
15	膝関節に関する疾患	講義 小テスト
16	確認テスト 2	試験・解説
17	足関節・足部の機能解剖と運動学①	講義 小テスト

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	足関節・足部の機能解剖と運動学②	講義 小テスト		
19	足関節および足部の筋の特徴と触診①	講義 小テスト		
20	足関節および足部の筋の特徴と触診①	講義 小テスト		
21	足部にみられる変形	講義 小テスト		
22	確認テスト3	試験・解説		
23	脊柱の基本構造	講義 小テスト		
24	頭頸部の機能解剖と運動学	講義 小テスト		
25	胸腰部の機能解剖と運動学	講義 小テスト		
26	仙腸関節の機能解剖と運動学	講義 小テスト		
27	頭頸部・体幹の筋の特徴と触診	講義 小テスト		
28	頭頸部・体幹の筋の特徴と触診	講義 小テスト		
29	脊柱部にみられる疾患	講義 小テスト		
30	確認テスト4	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
有馬慶美 他 監訳『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版.		確認テスト1	25.0%	単元ごとのテストで評価
青木隆明 監修『運動療法のための機能解剖学的触診技術』メディカルビュー		確認テスト2	25.0%	
中村隆一 著『臨床運動学』医歯薬出版.		確認テスト3	25.0%	
		確認テスト4	25.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
画像診断学		理学療法科／2年	2022／前期	講義
90分	15回	1単位（30時間）	必須	天埜 龍美（実務経験有）

授業の概要

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。

本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。

生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

【実務経験】病院 学校勤務

授業終了時の到達目標

1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

回	テーマ	内容
1	画像診断学総論	講義、スライド
2	生理機能検査学総論	講義、スライド
3	生理機能検査学各論①	講義、スライド
4	生理機能検査学各論②	講義、スライド
5	生理機能検査学各論③	講義、スライド
6	生理機能検査学各論④	講義、スライド
7	放射線医学総論	講義、スライド
8	画像診断学各論① 胸部X線、CT検査	講義、スライド
9	画像診断各論② 頭部X線、CT、MRI検査、脳血管造影検査	講義、スライド
10	画像診断学各論③ 頭部CT、MRI読影演習	講義、スライド
11	画像診断各論④ 腹部X線、CT、超音波検査	講義、スライド
12	まとめ	講義、スライド
13	まとめ	講義、スライド
14	まとめ	講義、スライド
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
医学教育出版社：PT・OTのための画像診断マニュアル：百島祐貴	期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
臨床運動学		理学療法科 / 2年	2022 / 前期	講 義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	小西 大海 (実務経験有)

授 業 の 概 要

臨床における運動障害を、機能解剖学および運動生理学的知識に基づいて理解する。

【実務経験】病院

授業終了時の到達目標

- 1) 正常歩行動作に関する運動学的基礎知識を説明することができる
- 2) 基本動作の分析から問題点を抽出することができる
- 3) 基本的動作を適切に誘導することができる

回	テ ー マ	内 容
1	寝返り動作の分析	講義、スライド
2	寝返り動作の分析	講義、スライド
3	寝返り動作の誘導	講義、スライド
4	寝返り動作の誘導	講義、スライド
5	起き上がり動作の分析	講義、スライド
6	起き上がり動作の分析	講義、スライド
7	起き上がり動作の誘導	講義、スライド
8	起き上がり動作の誘導	講義、スライド
9	立ち上がり動作の分析	講義、スライド
10	立ち上がり動作の分析	講義、スライド
11	立ち上がり動作の誘導	講義、スライド
12	立ち上がり動作の誘導	講義、スライド
13	バイオメカニクス概論	講義、スライド
14	バイオメカニクス概論	講義、スライド
15	姿勢分析	講義、スライド
16	姿勢分析	講義、スライド
17	正常歩行動作概論①	講義、スライド

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	正常歩行動動作概論②	講義、スライド		
19	正常歩行動動作概論③	講義、スライド		
20	正常歩行動動作概論④	講義、スライド		
21	正常歩行動動作概論⑤	講義、スライド		
22	正常歩行動動作概論⑥	講義、スライド		
23	正常歩行動動作概論⑦	講義、スライド		
24	正常歩行動動作概論⑧	講義、スライド		
25	歩行動動作分析①	講義、スライド		
26	歩行動動作分析②	講義、スライド		
27	歩行動動作分析③	講義、スライド		
28	歩行動動作分析④	講義、スライド		
29	歩行動動作分析⑤	講義、スライド		
30	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一 編著『臨床運動学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
理学療法管理学		理学療法科 / 3年	2023 / 前期	講 義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	松本 昇 (実務経験有)

授 業 の 概 要

組織での理学療法部門は単独で機能しておらず、他職種との関係性を全体の枠組みの中でとらえていく必要がある。その為にも、理学療法部門の組織内での位置づけと役割、診療記録や他の記録の意義と運用、事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

医療機関における理学療法部門の位置づけとチーム医療における役割を理解する。また、管理業務から臨床教育の基本について学び、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるようプランを作成する。

回	テ ー マ	内 容
1	管理、マネジメント①	講義
2	管理、マネジメント②	講義
3	理学療法管理学①	講義
4	理学療法管理学②	講義
5	理学療法士の職業倫理①	講義
6	理学療法士の職業倫理②	講義
7	組織運営とマネジメント	講義
8	理学療法士の職場管理①	講義
9	理学療法士の職場管理②	講義
10	理学療法業務のマネジメント	講義
11	教育研究のマネジメント	講義
12	保健制度と年金制度、雇用制度	講義
13	生活保護制度、健康増進法	講義
14	疾患別・病気別の理学療法マネジメント	講義
15	試験・解説	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他の評価
・奈良勲編著 理学療法管理学 医歯薬出版株式会社	期末試験	100%	

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
評価測定法 I		理学療法科 / 1年	2022 / 前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	竹村 蘭美(実務経験有)

授 業 の 概 要

評価とは何かを考え、解剖学基礎で学習している骨、筋に対し、筋の走行、触診を含め行う。

[実務経験] 施設勤務

授業終了時の到達目標

理学療法評価の目的・意義・機能について理解する。面接・問診・情報収集について実践できる知識と技術を習得する。また、骨触診、筋触診、筋走行に必要な知識、技術を習得する

回	テ ー マ	内 容
1	骨触診について①	講義、スライド
2	骨触診について②	講義、スライド
3	骨触診について③	講義、スライド
4	骨触診について④	講義、実技
5	骨触診について⑤	講義、実技
6	骨触診について⑥	講義、実技
7	筋触診について①	講義、実技
8	筋触診について②	講義、実技
9	筋触診について③	講義、実技
10	筋の走行について①	講義、実技
11	筋の走行について②	講義、実技
12	筋の走行について③	講義、実技
13	筋の走行について④	講義、実技
14	実技試験	試験
15	筆記試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他の評価
Cynthia C. Norkin, D. Joyce White 著・木村哲彦 監訳『関節可動域測定法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 野島元雄 監訳『図解 四肢と脊柱の診かた』医歯薬出版。 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。	実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	筆記・実技試験によって評価。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅱ		理学療法科／1年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	森下 正憲(実務経験有)

授業の概要

評価とは何かを考え、評価測定法Ⅰで学習したことをふまえ、その中で血圧測定、形態測定、可動域測定の技術習得を目指していく。

【実務経験】施設勤務

授業終了時の到達目標

評価測定法Ⅰの学習内容も含め、血圧測定、形態測定、可動域測定の習得

回	テ 一 マ	内 容
1	理学療法評価とは	講義、スライド
2	調査・面接・問診	講義、スライド
3	医学的・社会的情報収集	講義、スライド
4	形態測定。血圧測定について	講義、スライド
5	形態測定。血圧測定(実技)	講義・実技
6	形態測定。血圧測定(実技)	講義・実技
7	可動域について	講義・実技
8	可動域測定(実技)	講義・実技
9	可動域測定(実技)	講義・実技
10	可動域測定(実技)	講義・実技
11	可動域測定(実技)	講義・実技
12	可動域測定(実技)	講義・実技
13	可動域測定(実技)	講義・実技
14	可動域測定(実技)	講義・実技
15	試験	試験
教科書・教材		評価基準
Cynthia C. Norkin, D. Joyce White 著・木村哲彦 監訳『関節可動域測定法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 野島元雄 監訳『図解 四肢と脊柱の診かた』医歯薬出版。 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。		評価率
		その他
		実習・実技評価 期末試験
		50.0% 50.0%
		筆記・実技試験によって判断。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科／2年	2022／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	小西 大海 (実務経験有)

授 業 の 概 要

徒手筋力測定法について原理から実技までを学習していく。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

徒手筋力測定法について筆記面、実技面で習得していく。

回	テ　ー　マ	内　容
1	徒手筋力検査の原理	講義
2	徒手筋力検査の原理	講義
3	徒手筋力検査の原理	講義
4	徒手筋力検査の原理	講義
5	徒手筋力検査法（上肢）	実技
6	徒手筋力検査法（上肢）	実技
7	徒手筋力検査法（上肢）	実技
8	徒手筋力検査法（上肢）	実技
9	徒手筋力検査法（上肢）	実技
10	徒手筋力検査法（上肢）	実技
11	徒手筋力検査法（下肢）	実技
12	徒手筋力検査法（下肢）	実技
13	徒手筋力検査法（下肢）	実技
14	徒手筋力検査法（下肢）	実技
15	徒手筋力検査法（下肢）	実技
16	徒手筋力検査法（下肢）	実技
17	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
19	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
20	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
21	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
22	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
23	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
24	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
25	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
26	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
27	実技試験	試験		
28	実技試験	試験		
29	筆記試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著・津山直一訳『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社. 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院. 和才嘉昭・鳴田智明 著『測定と評価』医歯薬出版.		期末試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試験にて評価

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法IV		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員

90分 30回 2単位(60時間) 必須 天埜 龍美(実務経験有)

授 業 の 概 要

感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。

【実務経験】施設勤務

授業終了時の到達目標

感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。また、筆記面、実技面において知識、技術を習得する

回	テ　ー　マ	内　容
1	知覚検査	講義、実技
2	知覚検査	講義、実技
3	知覚検査	講義、実技
4	知覚検査	講義、実技
5	反射検査	講義、実技
6	反射検査	講義、実技
7	反射検査	講義、実技
8	反射検査	講義、実技
9	整形外科疾患検査	講義、実技
10	整形外科疾患検査	講義、実技
11	整形外科疾患検査	講義、実技
12	整形外科疾患検査	講義、実技
13	痛みの評価	講義、実技
14	痛みの評価	講義、実技
15	脳神経検査	講義、実技
16	脳神経検査	講義、実技
17	姿勢反射検査	講義、実技

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	姿勢反射検査	講義、実技		
19	筋トーヌス検査	講義、実技		
20	筋トーヌス検査	講義、実技		
21	筋トーヌス検査	講義、実技		
22	筋トーヌス検査	講義、実技		
23	協調性検査	講義、実技		
24	協調性検査	講義、実技		
25	協調性検査	講義、実技		
26	協調性検査	講義、実技		
27	実技試験	試験		
28	実技試験	試験		
29	筆記試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著・津山直一訳『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 和才嘉昭・鳴田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。		筆記試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試験にて評価

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
運動療法 I		理学療法科 / 2年	2022 / 前期	講 義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	村上 雅仁 (実務経験有)

授 業 の 概 要

人間の症状など障害に対し、医学ならびに運動治療学などの基礎理論を背景にした運動そのものを用いた方法を学ぶ。

[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

運動療法に必要な知識と技術を習得し、臨床で実施する基本的な運動療法手技について学習する。

回	テ ー マ	内 容
1	運動療法の概念①	講義
2	運動療法の概念②	講義
3	運動療法の基礎 (関節の構造と運動) ①	講義
4	運動療法の基礎 (関節の構造と運動) ②	講義
5	〃 (筋収縮のメカニズム) ①	講義
6	〃 (筋収縮のメカニズム) ②	講義
7	〃 (随意運動のメカニズム) ①	講義
8	〃 (随意運動のメカニズム) ②	講義
9	〃 (運動制御と運動学習) ①	講義
10	〃 (運動制御と運動学習) ②	講義
11	〃 (運動と呼吸) ①	講義
12	〃 (運動と呼吸) ②	講義
13	〃 (運動と循環) ①	講義
14	〃 (運動と循環) ②	講義
15	〃 (運動と代謝) ①	講義
16	〃 (運動と代謝) ②	講義
17	組織の病態生理と修復 (運動器系) ①	講義

回	テ　ー　マ	内　容
18	" ②	講義
19	" ③	講義
20	" ④	講義
21	組織の病態生理と修復（神経系）①	講義
22	" ②	講義
23	" ③	講義
24	" ④	講義
25	運動の種類①	講義
26	" ②	講義
27	まとめ①	講義
28	" ②	講義
29	試験	試験
30	解説	講義
教科書・教材		評価基準
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論』医学書院。		期末試験
		評価率
		100%
		その他

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法Ⅱ		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	北野 剛士(実務経験有)

授業の概要

人間の症状など障害に対し、医学ならびに運動治療学などの基礎理論を背景にした運動そのものを用いた方法を学ぶ。また、疾患別、障害別の運動療法の基本的理解を深めていく。

[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

本授業では、運動療法Ⅰ(基礎)の内容を再確認すると共に、疾患別、障害別の運動療法の基本的理解を深めていくことを目的とする。

回	テーマ	内 容
1	骨関節疾患の運動療法① (骨折・脱臼の運動療法)	講義・演習
2	骨関節疾患の運動療法② (骨折・脱臼の運動療法)	講義・演習
3	骨関節疾患の運動療法③ (靭帯・半月板損傷の運動療法)	講義・演習
4	骨関節疾患の運動療法④ (靭帯・半月板損傷の運動療法)	講義・演習
5	骨関節疾患の運動療法① (腱断裂の運動療法)	講義・演習
6	骨関節疾患の運動療法② (腱断裂の運動療法)	講義・演習
7	骨関節疾患の運動療法① (関節リウマチの運動療法)	講義・演習
8	骨関節疾患の運動療法② (関節リウマチの運動療法)	講義・演習
9	骨関節疾患の運動療法① (変形性関節症の運動療法)	講義・演習
10	骨関節疾患の運動療法② (変形性関節症の運動療法)	講義・演習
11	骨関節疾患の運動療法① (人工関節の運動療法)	講義・演習
12	骨関節疾患の運動療法② (人工関節の運動療法)	講義・演習
13	骨関節疾患の運動療法① (側弯症の運動療法)	講義・演習
14	骨関節疾患の運動療法② (側弯症の運動療法)	講義・演習
15	脳障害の運動療法① (脳血管障害の運動療法(1)ー早期ー)	講義・演習
16	脳障害の運動療法② (脳血管障害の運動療法(1)ー早期ー)	講義・演習
17	〃 ① (脳血管障害の運動療法(2)ー回復期ー)	講義・演習

回	テ　ー　マ	内　容		
18	" ② (脳血管障害の運動療法 (2) 一回復期 -)	講義・演習		
19	脳障害の運動療法① (パーキンソン病の運動療法)	講義・演習		
20	脳障害の運動療法② (パーキンソン病の運動療法)	講義・演習		
21	脳障害の運動療法① (小脳性運動失調の運動療法)	講義・演習		
22	脳障害の運動療法② (小脳性運動失調の運動療法)	講義・演習		
23	脳障害の運動療法① (脳外傷の運動療法)	講義・演習		
24	脳障害の運動療法② (脳外傷の運動療法)	講義・演習		
25	脳障害の運動療法① (脳性麻痺の運動療法)	講義・演習		
26	脳障害の運動療法② (脳性麻痺の運動療法)	講義・演習		
27	脊髄損傷の運動療法①	講義・演習		
28	脊髄損傷の運動療法②	講義・演習		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論』医学書院。		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学 I		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	中 聰之 (実務経験有)
授 業 の 概 要				

各疾患を理解した上で治療に対する考え方、リスク管理について学んでいく。

【実務経験】施設勤務

授業終了時の到達目標

本授業は、整形外科を中心とした疾患の理学療法について学習する。実際の臨床において必要とされる評価、理学療法アプローチ、リスク管理について学習し、実践できることを目指す。

回	テ　ー　マ	内　容
1	骨折①	講義、演習、実技
2	骨折②	講義、演習、実技
3	高齢者の骨折①	講義、演習、実技
4	高齢者の骨折②	講義、演習、実技
5	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア①	講義、演習、実技
6	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア②	講義、演習、実技
7	側弯症	講義、演習、実技
8	変形性股関節症 (THA術後療法) ①	講義、演習、実技
9	変形性股関節症 (THA術後療法) ②	講義、演習、実技
10	変形性股関節症 (THA術後療法) ③	講義、演習、実技
11	変形性膝関節症 (TKA術後療法) ①	講義、演習、実技
12	末梢神経損傷 (顔面神経麻痺) ①	講義、演習、実技
13	末梢神経損傷 (顔面神経麻痺) ②	講義、演習、実技
14	末梢循環障害①	講義、演習、実技
15	末梢循環障害②	講義、演習、実技
16	頸肩腕症候群 (肩関節周囲炎を含む) ①	講義、演習、実技
17	頸肩腕症候群 (肩関節周囲炎を含む) ②	講義、演習、実技

回	テ　ー　マ	内　容		
18	スポーツ外傷、ACL 半月版損傷①	講義、演習、実技		
19	スポーツ外傷、ACL 半月版損傷②	講義、演習、実技		
20	関節リウマチ①	講義、演習、実技		
21	関節リウマチ②	講義、演習、実技		
22	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）①	講義、演習、実技		
23	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）②	講義、演習、実技		
24	頸椎・腰椎術後療法①	講義、演習、実技		
25	頸椎・腰椎術後療法②	講義、演習、実技		
26	熱傷	講義、演習、実技		
27	切断と義肢①	講義、演習、実技		
28	切断と義肢②	講義、演習、実技		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂・柳澤健 編集『理学療法ハンドブック（改訂第3版）』協同医書出版社.		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	小西 大海 (実務経験有)

授 業 の 概 要

本授業では、脳血管障害を中心とした中枢神経疾患の理学療法について学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 脳血管障害・パーキンソン病の臨床像(病態・画像診断・治療を含む)を説明することができる。
- 2) 脳血管障害・パーキンソン病に対する理学療法評価を行うことができる。
- 3) 脳血管障害・パーキンソン病患者の基本動作の分析と誘導を行うことができる。
- 4) 脳血管障害・パーキンソン病の各病期に応じた基本的理学療法を実施することができる。

回	テ　ー　マ	内　容
1	脳血管障害概論1	講義、実技、演習
2	脳血管障害概論2	講義、実技、演習
3	脳血管障害概論3	講義、実技、演習
4	脳血管障害の臨床像	講義、実技、演習
5	脳血管障害に対する評価概論1	講義、実技、演習
6	脳血管障害に対する評価概論2	講義、実技、演習
7	脳血管障害；臥位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
8	脳血管障害；臥位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
9	脳血管障害；臥位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習
10	脳血管障害；臥位レベルの評価と治療4	講義、実技、演習
11	脳血管障害；座位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
12	脳血管障害；座位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
13	脳血管障害；座位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習
14	脳血管障害；座位レベルの評価と治療4	講義、実技、演習
15	脳血管障害；立位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
16	脳血管障害；立位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
17	脳血管障害；歩行の評価と治療1	講義、実技、演習

回	テ　ー　マ	内　　容		
18	脳血管障害;歩行の評価と治療2	講義、実技、演習		
19	下肢装具の復習と歩行分析1	講義、実技、演習		
20	下肢装具の復習と歩行分析2	講義、実技、演習		
21	下肢装具の復習と歩行分析3	講義、実技、演習		
22	肩の問題と摂食嚥下の問題について	講義、実技、演習		
23	高次脳機能障害に対するアプローチ1	講義、実技、演習		
24	高次脳機能障害に対するアプローチ2	講義、実技、演習		
25	高次脳機能障害に対するアプローチ3	講義、実技、演習		
26	脳卒中ガイドラインについて	講義、実技、演習		
27	パーキンソン病の病態・臨床像概論1	講義、実技、演習		
28	パーキンソン病の病態・臨床像概論2	講義、実技、演習		
29	パーキンソン病に対する理学療法1	講義、実技、演習		
30	パーキンソン病に対する理学療法2	講義、実技、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「リハ実践テクニック 脳卒中」 「神経筋障害理学療法テキスト」 病気がみえる「脳・神経」		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学III		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 雅仁(実務経験有)

授業の概要

脊髄損傷患者の臨床症状や障害の状態を学び、頸髄損傷による四肢麻痺患者、胸腰髄損傷によつて対麻痺患者に対する評価、理学療法を学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 脊髄障害による各種の臨床症状や障害の状態を理解する。
- 2) 四肢麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の意義と目的、基本的な理学療法の方法を理解する。
- 3) 対麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の目的と介入方法について理解する。
- 4) 脊髄損傷が社会参加するための生活環境整備の工夫を知り、生活機能向上のための理学療法を理解する。

回	テ　ー　マ	内　容
1	脊髄損傷の病態 1	講義、演習
2	脊髄損傷の病態 2	講義、演習
3	頸髄損傷(四肢麻痺)の評価 1	講義、演習
4	頸髄損傷(四肢麻痺)の評価 2	講義、演習
5	頸髄損傷(四肢麻痺)の治療 1	講義、演習
6	頸髄損傷(四肢麻痺)の治療 2	講義、演習
7	頸髄損傷(四肢麻痺)の治療 3	講義、演習
8	胸腰髄損傷(対麻痺)の評価 1	講義、演習
9	胸腰髄損傷(対麻痺)の評価 2	講義、演習
10	胸腰髄損傷(対麻痺)の治療 1	講義、演習
11	胸腰髄損傷(対麻痺)の治療 2	講義、演習
12	胸腰髄損傷(対麻痺)の治療 3	講義、演習
13	頸椎症性脊髄症の評価と治療	講義、演習
14	OPLLの評価と治療	講義、演習
15	期末試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
細田多穂監修 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト	期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	松本 昇(実務経験有)

授業の概要

罹患率が高い内部障害疾患について、成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

循環器および呼吸器、代謝系疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、生活習慣病患者の増加とともに急増している狭心症や心筋梗塞を始めとする循環器系疾患や呼吸器疾患、糖尿病などの代謝系疾患の理学療法について学ぶ。これらの疾患は、理学療法中に生命にかかわる場合もあり、正しい知識の習得が重要である。そのため、病態の理解、測定・検査法と評価法、目標設定と理学療法の治療計画、リスク管理、治療効果など、理学療法の基本原則と理学療法の流れを身につける。更に、患者が速やかに社会復帰できるような治療支援の方法について学習する。

回	テ　ー　マ	内　容
1	オリエンテーション	講義、演習、実技
2	循環器疾患①	講義、演習、実技
3	循環器疾患②	講義、演習、実技
4	循環器疾患③	講義、演習、実技
5	循環器疾患④	講義、演習、実技
6	循環器疾患⑤	講義、演習、実技
7	循環器疾患⑥	講義、演習、実技
8	呼吸器疾患①	講義、演習、実技
9	呼吸器疾患②	講義、演習、実技
10	呼吸器疾患③	講義、演習、実技
11	呼吸器疾患④	講義、演習、実技
12	呼吸器疾患⑤	講義、演習、実技
13	呼吸器疾患⑥	講義、演習、実技
14	消化器疾患①	講義、演習、実技
15	消化器疾患②	講義、演習、実技
16	消化器疾患③	講義、演習、実技

回	テ　ー　マ	内　容		
17	消化器疾患④	講義、演習、実技		
18	消化器疾患⑤	講義、演習、実技		
19	肝・胆疾患①	講義、演習、実技		
20	肝・胆疾患②	講義、演習、実技		
21	肝・胆疾患③	講義、演習、実技		
22	肝・胆疾患④	講義、演習、実技		
23	泌尿器疾患①	講義、演習、実技		
24	泌尿器疾患②	講義、演習、実技		
25	泌尿器疾患③	講義、演習、実技		
26	生殖器疾患①	講義、演習、実技		
27	生殖器疾患②	講義、演習、実技		
28	生殖器疾患③	講義、演習、実技		
29	総まとめ	講義、演習、実技		
30	試験	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
• 『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内部障害理学療法学』医学書院。 • 病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA • 病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA • 病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA • 病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA • 病気がみえる 8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学 V		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	竹村繭美(実務経験有)

授業の概要

代表的な神経筋疾患について成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 小脳性運動失調に対する理学療法の基本的な考え方と実際について理解する。
- 2) 神経難病の特性をふまえたうえで、それぞれの病態を理解する。
- 3) 神経難病の進行状況を把握するための病態評価方法や理学療法のあり方を理解する。

回	テーマ	内容
1	運動失調(症)の定義と分類	講義、演習
2	小脳性運動失調症の病態と症状	講義、演習
3	小脳変性疾患の特徴	講義、演習
4	小脳性運動失調の評価	講義、演習
5	小脳性運動失調の理学療法 1	講義、演習
6	小脳性運動失調の理学療法 2	講義、演習
7	多発性硬化症の病態と症状	講義、演習
8	多発性硬化症の評価	講義、演習
9	多発性硬化症に対する理学療法	講義、演習
10	ALSの病態と症状	講義、演習
11	ALSの評価	講義、演習
12	ALSに対する理学療法	講義、演習
13	多発性筋炎について	講義、演習
14	重症筋無力症について	講義、演習
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
病気がみえる「脳・神経」 細田多穂 監修 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト	期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学VI		理学療法科／2年	2022／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本 和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状を学ぶ。 ・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法について学ぶ。 <p>【実務経験】病院・学校</p>				
授業終了時の到達目標				
1) 脳性麻痺の病態・臨床像を理解する 2) 脳性麻痺児・者に対する理学療法の評価と治療の概略を理解する 3) 筋ジス・二分脊椎・発達障害の臨床像と理学療法について理解する 4) 正常発達、小児理学療法に関する知識を復習し、国家試験レベルの課題は8割以上理解することができる				
回	テーマ	内 容		
1	脳性麻痺に対する評価概論	講義、演習		
2	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)1	講義、演習		
3	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)2	講義、演習		
4	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)3	講義、演習		
5	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)1	講義、演習		
6	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)2	講義、演習		
7	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)3	講義、演習		
8	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)4	講義、演習		
9	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	講義、演習		
10	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	講義、演習		
11	筋ジストロフィーの理学療法について1	講義、演習		
12	筋ジストロフィーの理学療法について2	講義、演習		
13	二分脊椎の理学療法について	講義、演習		
14	小児の整形疾患について	講義、演習		
15	発達障害について	講義、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
河村 光俊 著『小児の理学療法』医歯薬出版		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断。
今川忠男『脳性麻痺児の24時間姿勢ケア』三輪書店				

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
地域理学療法論Ⅲ		理学療法科／3年	2023／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	森下 正憲(実務経験有)

授業の概要

地域理学療法論Ⅱで学んだことを活かして、地域での理学療法士の役割を学びます。

[実務経験] 施設勤務

授業終了時の到達目標

地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会(在宅)における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。

回	テ 一 マ	内 容
1	地域における多職種連携	講義、スライド
2	訪問リハビリでの理学療法士の役割①	講義、スライド
3	訪問リハビリでの理学療法士の役割②	実技
4	入所施設での理学療法士の役割①	講義、スライド
5	入所施設での理学療法士の役割②	実技
6	通所施設での理学療法士の役割①	講義、スライド
7	通所施設での理学療法士の役割②	実技
8	予防リハビリでの理学療法士の役割①	講義、スライド
9	予防リハビリでの理学療法士の役割②	実技
10	障がい者スポーツでの理学療法士の役割①	講義、スライド
11	障がい者スポーツでの理学療法士の役割②	実技
12	予防リハビリの実践①	実技
13	予防リハビリの実践②	実技
14	予防リハビリの実践③	実技
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大渕修一 責任編集 『健康増進と介護予防』三輪書店。 奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院。	期末試験 実技試験	50% 50%	筆記試験と実技試験にて評価